



## Assisted Reproductive Technologies in Armenia.

### アルメニアの生殖補助医療

#### Interviewee

Dr. Kristina Melikyan

#### Q. 先生のご専門とこれまでのキャリアを教えてください。

生殖医療専門医として、この分野で 20 年間働いてきた。グルジアで生まれ、ロシアの医学部を卒業後、アルメニアで 12 年間働いている。

エレバンにある Vitromed 生殖医療センターに勤務しており、年間約 600~700 回の体外受精を行っている。

#### Q. アルメニアの不妊のカップルにとって体外受精はどのくらいポピュラーですか？ 政府からの補助はありますか？

体外受精はアルメニアではポピュラーな治療法。全国に 6 つの体外受精クリニックがあり、人口 (250 万人) のニーズに対してじゅうにぶんに答えられる。アルメニアの不妊率は約 15%だ。

アルメニアの人々にとって、子どもを持つことは非常に重要なこと。体外受精に対する政府補助金は昨年から導入され、35 歳未満の既婚カップルが対象になっている。このクリニックでは、患者の約 40%がこの助成金を受けており、体外受精を 2 回まで受けることができる。

他国と比べると、アルメニアの健康保険制度はあまり発達していないが、徐々に改善されてきている。

アルメニアで体外受精を受けるカップルの典型的なプロフィールは以下の通り：

- 平均年齢：37-38 歳
- 不妊期間：3~5 年
- 可能であれば 2 人以上の子どもを持ちたいと思っている

#### Q. 不妊治療に対するアルメニア政府の態度は？

アルメニア政府は人口の増加を支援したいと考えており、不妊治療に協力的な態度をもっている。アルメニアでは最近、紛争が頻発しており、それが人口に影響している。概して、人口は減少傾向にある。

#### Q. 体外受精は高額ですか？ 民間療法に頼る人は多いでしょうか？

アルメニアでの体外受精の 1 サイクルの費用は約 5,000 米ドル (すべての薬と診察を含む) です。これはアルメニアの基準からすると非常に高額。IUI 治療もあるが、成功率は低くなる。民間療法はあまり人気がなく、アルメニアの患者はアロパシー医学を好む。

#### Q. 不妊の原因として多いのは？ 国民の間で、男性不妊に対する啓発は進んでいますか？ 不妊の原因は女性だと考えられていますか？

自分の観察では不妊症の約 80%は男性不妊であり、精子の濃度などに問題があることが原因。アルメニア人の男性不妊に対する意識は低く、不妊の原因は女性にあると考えられている。

男性患者は不妊検査の結果にストレスを感じる人が多い。治療の第一選択は、体外受精の必要性を回避する手段として、生活習慣の改善 (禁煙、減量、運動など) を勧めることだが、これには抵抗がある



ことが多い。多くの人は、習慣を変えるよりも体外受精の治療を受けることを望む。

**Q. 専門家は、体外受精をどこの国で学びますか？ 不妊治療は有望なキャリアとなりますか？**

アルメニアで体外受精医となるために、追加の資格は必要ない。可能であれば、渡航先は英語圏が望ましい。現在、その分野では研修医が多いので、若手医師が研修を修了した後、アルメニアで仕事を確保するのは難しいかもしれないと考えている。生殖の分野では、競争率は高くなる。高収入を得られる見込みがあるため、人気のある選択だ。

**Q. 現在アルメニアには何施設ありますか？ 実施サイクル数や成功率などのデータはありますか？**

全国に6つのクリニックがある。アルメニアでは年間約 3,000~3,500 回の体外受精が行われている。成功率はかなり高く（約 45%が臨床妊娠）、これは ESHRE の成功率に匹敵する。

**Q. 体外受精、生殖補助医療の法律・法案、ガイドラインはありますか？ 現在、法整備に向けて何か議論されていることはありますか？**

アルメニアには、生殖医療の団体がある。この団体ではまだ不妊治療に関する独自のガイドラインを公表していないが、近い将来、そのようなガイドラインやプロトコルを導入する予定だ。

2020 年の戦争終結後、少子化が重要な問題となった。紛争中、18~19 歳のアルメニア兵 7,000 人が死亡した。彼らの両親の多くはまだ若く、望めばもっと多くの

子どもを妊娠することが可能であり、政府は夫婦が子づくりに挑戦することを選択する場合、支援制度を導入した。このため、アルメニアで生殖医療への支援が強化された。

**Q. 不妊の女性(あるいはカップル)は、アルメニア社会の中でどのような扱いを受けますか？ 子どもがいない夫婦は容認されますか？**

不妊カップルは、家族や社会一般からの社会的プレッシャーに直面している。結婚して1年も経つと、誰もがいつ子どもができるのかと尋ねてくる。昔ほど顕著ではなくなったが、それでもよくある経験だ。

子どものいないカップルは例外中の例外だといえる。自分の兄は子どもがいないが、それ以外に子どもを作らないという選択をした人を知らない。

**Q. 生殖ツーリズムはポピュラーですか？ なぜ海外に行きますか？**

アルメニアでの治療は非常に良いので、地元に住むアルメニア人は海外で治療を受けることはあまりない。もし海外に行くとするれば、ドイツは人気のある渡航先だ。

アメリカやその他の地域に住んでいるアルメニア人の中には、アルメニアで治療を受ける人がたくさんいる。

**Q. 海外からアルメニアにくる患者について教えてください。海外から来る患者は何を求めていますか？**

ロシアや中国からの患者も多い。特に、代理出産を希望する中国人患者が、最近アルメニアに大勢来るようになった。中国では代理出産が違法であり、ロシアやウクライナで治療を受けることができな



くなったため。ロシア紛争のために、代理出産のためにアルメニアを訪れる外国人患者が目立って増えている。

自分が勤務するクリニックの患者のうち、60%は地元のアルメニア人で、40%は海外からの患者だ。この数字には、海外に住みながらアルメニアに特別に治療を受けに来るアルメニア人も含まれている(世界中に約 800 万人のアルメニア人が住んでいる)。

**Q. 国内の人権団体など、代理出産などに批判的なグループはありますか？ 体外受精・代理出産などに対する宗教の態度は？**

アルメニアでは代理出産は合法であり、人権団体や教会から代理出産に対する目立った批判はない。教会は政府の政策に公式な影響力を持っていない。

**Q. 近隣のムスリムの国から患者は来ますか？**

近隣のイスラム諸国からアルメニアに治療を受けに来る患者はほとんどいない。自分のクリニックでは昨年、2 人のイラン人患者が受診したが、彼らは当時アルメニアに住んで働いており、従来の体外受精を希望していた。これは彼らにとって都合のいいことだった。

**Q. 不妊治療で余った胚はどうなりますか？**

自分のクリニックでは、余剰胚を廃棄するのが一般的だ。クリニックの胚培養士から見れば、これは非常に悲しいこと。余剰胚を廃棄できないイタリアのような国とは異なり、アルメニアでは胚の扱いを制限する規制はない。患者の希望に応じて、余剰胚をどうするか決めることができる。

一般的に、カップルは胚提供を希望しない。このクリニックでは過去 12 年間で、受精卵の提供を希望した患者は 2 人だけで、他はすべて廃棄を選んだ。

**Q. 男性不妊について教えてください。精子提供を選びますか？ 養子をとりますか？ 秘密やスティグマは強いですか？**

感情的に、アルメニアの患者にとって精子提供を選ぶ決断をすることは非常に難しい。夫婦は最後の究極の手段として精子提供を受けるが、それも匿名のドナーを使うより、家族内のドナー(例えば兄弟や父親)から提供をうけることを好む。

養子縁組にも問題がある。アルメニアでは、健康な赤ちゃんは養子に出されない。アルメニアの文化では子どもを持つことが非常に重視されるため、養子縁組に出される子どもは、重度の医療問題や障害を抱えている傾向がある。

**Q. アルメニアで行われている卵子提供と代理出産について教えてください。どのような女性が代理母になりますか？ 平均的な報酬は？**

男性は、精子提供に対して抵抗しがちだが、女性は、卵子提供に対する抵抗感が少ないことが多い。というのも、女性は子どもを身ごもることができるから。子どもが欲しいという願望が非常に強いいため、どんなことでもしようとする。

代理出産は国内外の患者が利用する。繰り返すが、これは最後の手段。代理母出産を希望する両親のほとんどは、代理母を利用していることを隠すことはないが、あえて周囲に公言するようなことはしない。今まで、9 ヶ月間妊娠しているふりをした依頼親を見たことがない。自分は、代理出産を依頼した親が、代理母や





不妊治療の医師をベビーシャワーに招待したケースを思い出す。

代理母は経済的な動機を持っている傾向がある。代理母になるためには、35歳以下であること、自分の子どもが1人以上いること、健康であることが条件で代理母になれるのは2回まで。

代理母への平均報酬は、最近では約10,000ドルから15,000ドルに増加している。自然分娩か帝王切開かは、医学的な適応によって決まる。

#### Q. 愛着の問題は生じますか？ どのように予防しますか？ 帝王切開が利用されますか？

今まで代理母が子どもに執着しているケースを見たことがない。法的に、代理母には子どもに対する権利はない。出産時も、代理母は子どもを抱くことはない。

妊娠中、依頼親と代理母の関係は難しい。というのも、依頼者は、より良い食事や薬などで代理母をサポートしたいが、代理母はコントロールされたくないから。

自分のクリニックでは、代理母を紹介していない。

#### Q. アルメニアの生殖補助医療全般について、どのような課題がありますか？

不妊治療の費用は大きな課題。治療費は、多くの患者にとって高額なため、クリニックは治療を希望するすべての人を支援することはできない。治療費が払えないために離婚になるカップルもいるくらいだ。

#### Q. アルメニアで血のつながりは重視されますか？

アルメニア人にとって、生物学的なつながりは非常に重要。不妊治療を終えた後、親しばしばDNA検査を受け、赤ちゃん

んが生物学的に自分の子であることを確認する。

患者から最もよく聞かれる質問は、クリニックがどのようにして精子や卵子、受精卵の『取り違え』を防いでいるか(つまり、患者が他人の配偶子ではなく自分の配偶子移植されていることをどのようにして確認できるか)ということである。

#### Q. その他

この3~4ヶ月の間に、中国人の患者が大幅に増加している。これらの患者は中国の代理出産エージェント経由で来院しているが、コミュニケーションの障害がかなりある。エージェントは月に約16人の患者をクリニックに連れてくる予定。エージェントはかなり強く主張してくるので、クリニックは多少プレッシャーを感じている。法律上、クリニックは彼らの治療を拒否することはできない。

アルメニアの医師たちは、中国人患者の需要の高まりが不妊市場を刺激し、地元の人々にとって不妊治療が割高になるのではないかと懸念している。クリニックはヨーロッパやアメリカ人と仕事することに慣れているが、中国人は文化的に異なるため、効果的なコミュニケーションをとるのに苦労する。通訳は絶対に必要。中国人患者は、お金さえ払えば何でもしてもらえると期待する傾向がある。彼らは代理出産に最高5万ドルを支払うことさえ厭わないので、市場は確実に変わるだろう。

自分は、アルメニアでドナー登録が必要だと考えている。そうすれば、年間何件の配偶子提供がなされているかなどを追跡することができるから。

アルメニアで配偶子提供はすべて匿名で行われている。依頼者は、ドナーの身元を知りたくない。ドナーの匿名性は法律で定められており、ドナーとレシピエントを後から結び



つける方法はない。依頼者には、ドナーが健康であることを証明するために、ドナーの健康情報が提供される。

(2023年8月)

#### **Dr. Kristina Melikyan**

エレバンにあるグルジアで生まれ、ロシアのクバン州立医学アカデミーを卒業。生殖医療専門医であり、この分野で20年間働いてきた。

現在は、VitroMed 生殖医療センターに生殖医療専門医兼副所長として勤務している。

VitroMed Reproductive Health Center [Link](#)